

平成30年度 上田市立南小学校 学校自己評価シート (総合報告)

学校目標	めざす子ども像 ~ 笑顔輝く南っ子 ~	
あたたかく ただしく たくよく	1	すすんで勉強する子ども 【知:ただしく】
	2	体をきたえる子ども 【体:つよく】
	3	がんばりぬく子ども 【体:つよく】
	4	自分で決めて行う子ども 【知:ただしく】
	5	思いやりのある子ども 【徳:あたたかく】
今年度の重点目標(重点活動)		
知:正しく	わくわく学び合い	①じっくり考え、しっかり書く ②聴き合い、伝え合い、学び合う
徳:温かく	にこにこ響き合い	③自分からあいさつや返事をする ④歌声や交流活動でつながる
体:強く	とんとん鍛え合い	⑤力を合わせ、清掃に取り組む ⑥自分の命は自分で守る

総合評価				
成果と課題	A	B	C	D
「全職員で全校の児童を見守る」という意識の中で、チーム支援を大切に、指導したりよさを認めたりする職員集団を構築しようと努めている。 児童間では、異学年交流を通して、お互いのよさを認め合う児童の姿も増えてきている。 積極的なあいさつや基礎基本の充実など、課題としてあがってきているものについて、全職員で共通理解を図り、足並みをそろえた指導を引き続き行っていきたい。				
グランドデザインの重点目標や各プランを意識して、同じ方向を目指しながら取組が進められた。 一人一人がめあてを意識して活動する姿が多く見られている。 細かい部分では、自分から意欲的にあいさつをする姿や、自分から気づいて清掃に取り組む姿がまだ課題である。	○	○		
				児童会活動との連携や各種月間での取組を通して、主体的な活動となるようにしていく。また、よさを認め、広めていくことで、児童の自己肯定感をさらに高めていけるようにする。

領域	対象	評価項目	評価の観点		
教育活動	学年・学級経営	⑤気づき清掃の推進・奉仕精神の醸成	ひざつき清掃など、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにすることで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。		
		⑥規範意識の高揚と危機管理意識の向上のための指導	校内生活で「右側廊下歩行」の徹底をさせて規範意識の高揚を図れたか。通学時に「道路横断前後の立ち止まり(確認・挨拶)」を意識付け、実践させることはできたか。		
		③気持ちのよいあいさつの充実と返事の徹底	積極的な声かけや児童会活動との連携で、気持ちのよいあいさつや返事のよさを自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。		
		④響き合う歌声や交流活動による認め合える仲間づくり	仲間と歌声を響き合わせたり、異学年や地域の方々とのふれあい交流を行ったりすることで、互いに認め合える集団づくりを進めているか。		
	学習指導	①授業のユニバーサルデザイン化・南小スタイルの推進	校内及び教室環境や教材の整備ができたか。「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。		
		①じっくり考え、しっかり書く振り返りの時間の確保	1時間で学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。		
		①基礎基本の定着・家庭学習の充実	ドリルや学びの時間で、つまづきを把握して、丁寧な指導を行い、基礎基本の定着を図れたか。「家庭学習の進め方」をもとに家庭と連携した家庭学習の充実にも努めているか。		
		②わからないことを聴き合い、考えを伝え合い、学び合う授業づくり	ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合い、それを伝え合いとなる学習場面を設定しているか。		
		地域との連携	学校作り	信頼関係でつながる学校づくり	学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子どもの様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。
				南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の確立	地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携して三点固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
なかよし学級での清掃を通して、ひざつき清掃や見つけ清掃が学校全体に広がってきている。さらに「だまって」「時間いっぱい」を意識して清掃に取り組む姿を育てていきたい。	○				教師が模範を示したり、高学年が見本を示したりすることで、ともにきれいにすることができたという達成感を持たせていきたい。
代表委員会の取組により、校舎内を落ち着いて行動する姿が増えてきた。しかし、その場の雰囲気まで走ってしまったり、登下校でも確認をせずに渡ってしまったりする姿が見られる。		○			児童会活動での継続的な呼びかけを行っていく。登下校では、定期的な集団登校、集団下校を通して大切なルールを意識していけるようにする。
児童会の取組により、挨拶をする習慣はついてきているように感じるが、「声をかけられたから」挨拶をするという受け身の姿勢が多い。言葉遣いにも気をつけさせたい。		○			児童会の取組を後押ししていくとともに、子ども達が進んで挨拶する姿を認め、広げていく。言葉遣いも、日頃の生活から意識づけていく。
どの教室でも毎朝朝の会で歌うことが定着している。なかよし学級での交流も定期的に行われ、笑顔で活動したりお互いに声を掛け合ったりする姿が見られる。	○				なかよし学級での交流で築かれた「認め合い」を、さらに異学年や地域の方々との交流に生かせるよう、声かけをしたり、よい姿を認めていったりしていく。
授業の流れをパターン化することで、子ども達が安心して授業に取り組むことができるようになってきている。また、個に応じた教材等も工夫し、授業に生かすこともできた。		○			「授業の約束」をもとに、どの学級でも大切にすべきことを共有して授業を進めていく。また、分かりやすい板書をさらに意識していく。
考える時間、書く時間の確保に努めているが、振り返りの時間が少なくなってしまう等時間配分を考えていく必要がある。他の考えや既習事項と結びつけて考える力を更につけていく必要がある。		○			授業の時間配分を考え、じっくりと1時間の振り返りができるようにし、どの子も学んだ内容が定着していけるようにしていく。
児童の実態に合わせた教材や指導を工夫したり、朝ドリルの時間で丸付けボランティアの方々にも入って丁寧に見ていただき、定着を図ってきた。家庭学習等、家庭とのさらなる連携も必要である。		○			個別に対応できる時間を確保し、基礎基本の定着を継続して図っていく。家庭学習についても、取り組みの様子等、家庭との連携にも努めていく。
ペア学習、グループ学習等、様々な形態で考え合ったり話し合ったりする経験から、話し合いもだいぶ活発になってきている。		○			単なる話し合いや伝え合いにならないよう、何について考え、話し合うか、めあてをはっきりさせ、中身のある話し合いとなるようにしていく。
学校評価では、子ども達が楽しく学校に通っているという評価が96%であった。連絡帳や電話等でも、子どもの様子についてお互いに共有することができた。	○				学校便りや学年通信で引き続き学校での様子や取り組み等を積極的に発信していく。心配なことについては、学校全体で迅速な対応をしていく。
積極的に外部講師やボランティアの方々に依頼し、子ども達の学習をサポートしていただいた。きめ細やかな指導のおかげで、活動も充実したものとなった。		○			引き続きボランティアの方々の支援をいただきながら、活動の充実を図っていく。生活習慣についても、必要に応じて連絡を取り合っていく。

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった